



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会報

No.25 June 10, 2011

- ジョークの心得三か条: 1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
3. ジョークは簡潔が至上です。

SPECIAL ISSUE

第25回研究発表会特別講演

英語落語の普遍性

大島 希巳江

●そもそも事の始まりは…



私が英語落語を始めたきっかけというのは、1996年、当時大学院生だった私が、シドニーで開かれた「国際ユーモア学会」に参加したことからでした。日本人の参加者は、私と、もう一人の方だけで

した。会場では、日本人の笑いに関する質問が、私にぶつけられたのですが、大学院生でほとんど何も知らなかった私は、何も答えられませんでした。

その質問のほとんどは、「日本人にユーモアのセンスはあるのか」というものでした。「もちろんあります」とお答えしたのですが、「それなら、その例を教えてください」と言われると、ぴったりの答えが私の中から出て来なかったのです。適切なジョークでも挙げればよかったのですが、それが難しい。結局、その場からさぐさぐと逃げ帰って来てしまって、たいへん悔しい思いをしました。

その他に、その会での質問には、「日本人は笑うのか」「どんな時に笑うのか」などというのがありました。それでも、「少し時間をください。来年の学会では、かならず日本人のユーモアについて、紹介することが出来るようになってきて参加します」と申し上げました。

そこで、次の年までに、「日本人は面白いんだということを証明しなければいけない」という課題を抱えたわけです。

●日本人はどんな場合に笑うのか

そこで自分たちがどんな場合に笑うのかと、ち

よつと振り返っていただきますと、これはあまりにもたわいないことで笑っているんですね。あまりにたわいもないことですから、翻訳してもほとんど通じませんし、日本人同士でも会話の輪の中にいない人からすると、何で笑っているのか分からないことが多いのです。

これはいわゆる「内輪うけ」です。お互いによく知った間柄の人が、過去の経験の話などをするから面白い。当然、他人が聞いても全然面白くない。「この間の沖縄旅行楽しかったわね。あの人がね…、わっはっは」なんて、これだけで笑っています。外の人には何のことだか分からない。ましてや外国人にはまったく通じません。

そこで、外国人にも通じる笑いはないかと考えますと、やはりパフォーマンスということになってきました。最初は漫才を考えました。ところが、漫才が日本独特のものであって、欧米のものまねではないという証拠が見つかりません。デュオでやる漫談は、昔から欧米にもあります。

そこで、落語に辿りつきました。落語なら300年~400年の歴史がありますから、欧米のものまねではないと言うことができます。建国の歴史を見ても、少なくともアメリカのものまねではありません。そこで落語を英語に翻訳して持って行こうと思いつきました。

●英語で落語ができないか

そんなわけで、1998年のオクラホマでのユーモア学会へ、落語を持って行ったわけです。と申しましても、当時私は自分で落語をやろうとは思っていませんでしたので、本職の落語家さんを一人連れて行きました。今でもいっしょにやっております大阪の松福亭鶴笑さんという方です。

ところで、皆さまよくご存知の桂枝雀師匠も英語落語をなさっていたんです。ところが枝雀師匠は、当時たいへん特殊な方だと思われていて、枝雀師匠だから英語落語をやるんだ。他の人がやるなんて考えられないという雰囲気でした。

それに枝雀師匠は人に見せるために英語落語をやっていたのではありません。英語が大好きだったんです。もとは神戸大学文学部英語学科の出身です。英語が大好きなんです、落語家になったために英語を話す機会がまったくない。だから英語をもう一度勉強したいなと思って、英会話学校に通っておられました。

枝雀師匠という方は、ものすごく無口な方です。ああいう方って落語家さんにいるんです。高座に上がると「わっー」をやるんですが、高座を降りると何にも言わないんです。枝雀師匠が英会話学校へ行っても、何を言われてもイエスとノーしか答えません。ですからご本人の英語力は全然向上しません。「しゃべってもらわないと英語は向上しないんです」と言われても、「イエス」とかぐらいしか言わない。

学校の方でも困りまして、「師匠、どんなことだったらしゃべって頂けますか」と相談したところ、「私は落語以外はほとんどしゃべらないんです」ということでした。しょうがないので、その落語をこちらで英語に翻訳しますから、それをしゃべってくださいとお願いしたのが、枝雀師匠の英語落語のきっかけです。

落語家さんで英語が得意な方は、ほとんどおられません。英語が苦手、嫌いという方がほとんどです。今では英語落語を得意としておられる方はたくさんおられますが、もとは「英語が得意だったら落語家なんかにはなっていません」と言う方がほとんどでした。「英語に限らず、勉強と名の付くものは何でも嫌いです」という方も多いですね。

●落語を通訳してもだめでした

ですからオクラホマでは、鶴笑さんが日本語の落語をやって、私が傍について、それを英語に訳してお客さんに聞いて頂いたわけです。当然、鶴笑さんがどんなに面白いことをしゃべってもお

客さんはシーンとしています。その後で、私がぼろぼろっと通訳すると、今度はどっと笑う。鶴笑さん



が次をしゃべっている間は、お客さんはシーン。私がぼろぼろっと訳すと、またどっと笑う。ですから、成功と言えば成功なんです、鶴笑さんから「こんなことは二度とやりません」と言われてしまいました。

落語家ですから、自分がしゃべった時に笑ってもらわないとどうにもなりません。そこで二人で約束したのは、「通訳じゃどうしようもない、ご本人に英語でしゃべってもらうしかない。鶴笑さんは英語をちょっと勉強してください。その代わり私に落語を教えてください」という交換条件をそこで成り立たせました。

これが英語落語の始まりです。それ以後、大学の夏休みと春休みの期間中に、いろんな国に英語落語を持ってまいりました。

●日本人はつまらない！

そうしますと驚きましたのは、「日本人はつまらない」というイメージが、じつに深く定着しているということです。

まず、「落語」という言葉を覚えてもらいたいと思ひまして、*rakugo* だけでは分からないので、Welcome to the *rakugo* show. と言うのですが、それでもよく通じないので Welcome to the Japanese *Rakugo* sit-down comedy. と言いました。ところが、それがおかしく聞こえてしょうがないというのがお客さまの反応です。JAPANESE と COMEDY が、どうしても結びつかないというのです。

日本人の三大苦手というものがあります。英語と、ジョークと、人前で話す、ということになっておりますが、英語落語というのは、その三つを同時にこなすという難関に挑むこととなります。ですから、こんなに日本人のイメージをくつがえす芸はありません。お客さんは、まさか笑えるとは思わないで来られます。

しかし、よく考えてみますと、落語は昔からあ

る芸なんです。ですから、日本人の笑いというのは昔からあったものなんです。

●落語のユニークさ

落語の特徴としては、着物を着て、高座に座ったままやるということもありますが、やはり、一人の演者が、複数の登場人物を、せりふだけで演じ分けるところに最大の特徴があると思います。これは本当に珍しいやり方だと思います。

海外にも一人芝居というものがありますが、一人の登場人物が、「お前なにやってんだ」「久しぶりだね。どこへ行ってたの」などと、人物が二人の時は、その都度人物の位置を変えて演じ分けられることになります。そこで、一人がしゃべる一回のせりふがどうしても長くなってしまいます。

ところが、落語の方は座ってやりますから、「お前どこ行ってたんだ」「ちょっと江戸まで」と短いせりふを交互に使い分けことが可能になります。

その際、噺家の身体の向きは、外向きになります。外向きの姿勢を取って会話をするというのはとても珍しいことだと思います。そのために、お客さんは自分に向かって話しかけられているものと勘違いしてしまいます。

まあ、こんなふうにして海外公演を続けていったのですが、鶴笑さんと私の二人だけでは、なかなか大変になって来ましたので、もっと人を増やしたいと思うようになりました。

そこで、若手を中心にリクルートしたのですが、たいていは英語が嫌いな方ばかりですから、「外国へ連れて行ってあげるよ」とかなんとか言って、何人かの方をお誘いしました。

当時は、関西系の方が多かったですね。枝雀師匠が関西の方でしたから、関西の若手の方にはあまり抵抗がなかったのだと思います。一方、東京では、英語落語は邪道という印象が当時は多かったようで、あまり興味を示されませんでした。

若手で英語落語をやってみたいという方はおられたと思いますが、師匠が許可して下さらないんです。いや、それより前に、若手落語家自身が師匠が許可しないだろうと思うだけで、腰が引けてしまうようでした。

●英語落語の制作秘話

まず、落語を英語に翻訳しました。たいていの落語は15分ぐらいですから、A4の紙に書くと、どうしても6枚分くらいにはなります。それを私が読み上げてテープに入れ、テキストといっしょにお渡ししたんですが、落語家さんたちは、英語は読めません。

そこでその英語にカタカナを振ることにしたのですが、これがたいへんな作業でした。しかもカタカナにするとまた分量が増えます。それでも、落語家さんたちは、カタカナでいいとおっしゃるんです。

こうして出来上がったテープと、カタカナで書いたテキストをお渡しして、覚えていただきました。落語家の方の暗記力というものはいちへんなものです。一ヵ月か一ヵ月半で、「憶えました」と言って来られます。

そこで、まず聞かせてください、とお願いします。初めてですから、カタカナ発音ではありませんが、とうとうと語られます。「凄いですね」と申し上げますと、「いいえ、自分の言っていることは何一つ分かりません」というお答えです。「意味はさっぱり分かりませんが、とにかく憶えました」ということです。

普通だったら、私たちは何か暗記しようと思ったら、まず意味が分かって初めて記憶が出来るのですが、そうじゃないんですから、これは特別な才能だと思いました。何の意味も分からないカタカナの羅列の何十ページ分も15分間喋るとするのは、どんな才能かと思うと想像も付きません。

最初の段階は、ここまででした。それ以上のことは出来ません。せっかく覚えたカタカナに意味づけをしようすると、頭がパンパンになってしまいますから、これ以上はできないと思いました。



こうして、頭に詰め込んで頂いた話がこぼれおちないように気を付けながら、ともかく初の海外公演に出発しました。このような状態が最初の三年間ほど続きました。

落語をひとくさりやりますと、お客さんが「わっ」とお笑いになります。その後、落語家は「笑い待ち」という一定の空白時間を入れます。すぐ次をしゃべっても、お客さんの声のざわめきで、次の語りは聞こえなくなるからです。この「笑い待ち」が入るため、上演時間が予定より長くなります。そこで、自分の話が予定より時間がかかるようになれば、落語家は「ああ、自分もこれだけの落語家になったな」と思って喜びます。

ところがカタカナを読みあげる落語の場合には、自分が話している内容が自分で分からないわけですから、ここでお客さんが笑うだろうという予想ができません。自分なりのタイミングでしか喋れないのです。お客さんが「わっ」と笑っても、どうして笑ったのか分かりませんから、自分の噺を止めるわけにはいかない。止めますと、次にどこから始めていいか判断がつかなくなります。いったん止めてしまうと、もう一回最初からやり直さなくてはならなくなります。

●市民権を得た英語落語

こんな不思議なことを何年か続けておりました。いろいろな国を訪問しますから、同じ話をあちこちで語ります。同じ話を何度も語っているうちに、しだいに英語の発音が良くなってきました。落語家の方も、お客さんの反応を読み取れるようになってきて、今どうして笑ったのかが分かるようになってまいります。

初めはいくつかの同じ話を繰り返し演じていたのですが、そのうちにそれらの各部分を自分なりの工夫によって繋ぎ合せ、独自の話を構成するというのをなさるようになってきました。

この企画を始めた頃には、どなたもパスポートさえお持ちでないという状態だったのです。ですから、海外に行きまして、公演が終わってひと息入れようとして、「自由に遊びに行ってください」と言っても、「そんなこと言わないでください」と、私から離れなかつたくらいだったのですが、今では私が何を言わなくても、自由時間になれば、バーっとどこかへ遊びに行ってしまうようになりました。

そして英語については、それまで憶えてきた文

を組み合わせて、ほとんど自由自在に会話をされるようになりました。うまい英語というわけではありませんが、英語を使えるようになりました。

その人たちが喋っているのを横から聞いてみますと、「これは、あの落語のあの部分のセリフだな」と分かるんですね。たとえば、イタリアン・レストランなんかへ行きますと、出て来た料理に、「コシがあるね。ダシが効いてるね」など、「時そば」のセリフを使って、ウェイトレスをつかまえ語りかけるなんてことをいたします。

●英語落語を授業の教材に

このようなことを続けてまいりますうちに、英語落語は英語の教材にも適しているのではないかと思いはじめました。実は、私の大学では四年前から「英語落語」という科目が開設されるようになりました。これから留学するという学生が受講することが多いんです。

海外の大学では、自分でプレゼンテーションをする機会がたくさんありますが、学生たちは何を言っているか分からないという人が多いですね。そんな場合には英語落語がとても役に立つようです。受講者希望者も90名以上も来ますので、クラスを分けています。

しかし、今の若い人は落語を全然知りませんので、英語の他に落語も勉強してもらわなければなりません。来年度から、NEW CROWN という中学校の英語の教科書に私が「英語落語の活動家」ということで登場するというのです。私が書いたんじゃないんです。どなたかがお書きになったのです。教科書に載るのですから、「四年間絶対に悪いことをしないでください」と念を押されました。

さて、英語と落語の関係についてですが、「英語落語会」を東京で開きますと、どちらかと言いますと落語はそれほど好きじゃないけれども、英語が好きだという方が来られます。実際、英語と落語は興味の方向性が違うようで、英語の好きな人は落語をあまり好きじゃない、落語の好きな人は英語をあまり好きじゃないと



いう傾向が見られます。特に若い方がそうです。

「英語落語」で初めて落語を見ましたという若い方だけです。そうすると「落語を初めて見ました。落語って面白いですね。今度日本語のを見てください」とおっしゃるんです。

●知らなかったのが幸だった

ということで落語界にも新しいお客さんの層が入って来ることになりました。そうしますと、最初はひじょうにうとまれていた落語界から、五年前あたりからでしょうか、小朝師匠から「大島さんがんばって。英語落語を認めよう」と仰って頂きました。上の方の何人かが認めてくださると、だーっと変わるんですね。ようやく市民権を得たような感じで、何とか現在まで発展して来られたように思います。

英語落語を若い時から始めてよかったなあ、とっております。私はアメリカでの生活が長く、日本社会では非常識な人間だったから出来たのだと思います。

どうしてかと申しますと、落語界からも芸術界からも、「そんなことは止めて頂きたい」と遠回しに言われていました。でも、私には、「止めなさい」と言われているのか、「遠慮しなさい」と言われているのか、判断が付かなかったのです。「やるな」とは言われていないのだから、やってもいいんじゃないの」と、勝手に解釈していました。嫌味を言われても気が付かなかったんですね。だからこそ続けて来られたのだと思います。

●異文化理解は共通点に注目

英語落語をやっていて、本当に多くの方に質問されることは、「落語なんて外国の人に分かるの？」ということです。あんなに昔から日本にある芸能を外国人が本当に理解することができるかということです。確かに枝葉の部分、たとえば会話調で進んで行く部分など、分かりにくい部分はたくさんあります。そういう分かりにくい部分を分かってもらうために海外に行くわけです。

私は異文化コミュニケーションの専門家ですが、異文化というのは、違いを見るのが大切なのではなく、共通点を見るのが大切なのだと思っております。違いは目立つんです。あの

国の人はこうだ。自分たちはこうだ、と考えると違いが目立ちます。

でも同じ人間ですから共通点も持っています。その共通点に目を向けた時に、「あ、私たちって一緒だね」と気が付いて、その時に友好関係が生まれるのだと思います。

ですから、英語落語が海外で成功する理由は、落語には世界共通の何かがあって、それに皆が共感するからだだと思います。ここ何年か英語落語をやってきて、そのことをひしひしと感じます。

それならばどうして落語の面白さが世界に通じるのだろうかと考えてみますと、江戸時代の初めには落語は二千種類ほどあったと言われていいます。それが現在では古典落語として演じられているのが 350 演目くらいだそうです。2,000 から 350 へというのは、時代の流れに合わせて自然淘汰されて来たんです。

こういう差別的な話はだめだとか、今の社会には通じないよとか言われて、どんどん数が減って来たということです。ですから現在演じられている古典落語は、サバイバルしたものです。

その生き残ってきた古典落語の特徴はというと、400 年前の日本人が面白いと思い、21 世紀の私たちも面白いと思う作品だということです。400 年前の日本人と現在の日本人とは、外国人以上に向け離れた文化を持っていると思います。社会の様子も生活習慣もかなり違います。

今この場に 400 年前の人が、ぼーんと現れたら、ほとんど話は通じないでしょう。それだけ異なった文化を持った人間がひとしく面白いと思ってきた演目は、他の国に持って行っても通じる何かがあるのではないのでしょうか。

●落語の芯と枝葉

ですから古典落語の内容を見ますと、人間の根源的なものが話の中心になっていることが分かります。人間であればいつの時代にも共通してある話ですね。愚かな人の話だとか、男女関係の話などです。世界でもっとも古いジョークは男女関係についてのものだと言われているようです。



そうしたことが落語の芯になっていて、枝葉の部分が日本文化です。ですから、芯の部分についてはお客さんはよく分かりますから、「わっ」と笑ってくださいます。一方の枝葉の部分については、「ああ、日本ではそんな具合なのか」とうなづいてください。

たとえば「時そば」の話は、勘定を誤魔化すというのが話の根っこです。つまりケチ話です。ケチということになると、世界中ぜんぶケチです。「時そば」の話というのは高々一文誤魔化す話です。勘定を払う場面で、「一文、二文...今何時でえ」という所は、世界中まったく問題なく分かってもらえます。

しかし枝葉の部分はとてもむずかしいんです。まず何といっても、そばをズルズルと吸るといところが分かってもらえない。私はあまりうまくありませんが、落語家さんはとても上手です。上手ければ上手いほどひどい音を立てますから...

●ズルズル食べるのも日本文化

ズルズル食べるというのは、日本人には美味しそうに聞こえますが、外国人はとても嫌がります。自分たちの国に、日本人観光客が団体で来て、皆でズルズル食べている様子を見ると、とても気持ちが悪そうです。そうすると私たちは、「嫌なんだろうな。気分を害しているんだろうな」と思いますけれど、これは日本文化なんです。

私、おそば屋さんへ行って訊いてまいりました。すると、そばは空気といっしょに吸い込まないと香りが鼻に抜けないから美味しくないんだそうです。そばといっしょに入れた空気が勢いになって、鼻からふっと出る時に、蕎麦の香りが感じられる、それが美味しいんだそうです。

こんなわけで、あれは日本文化なんです。ですから外国で周りに気を遣って音を立てないようにして食べるよりも、「日本人とはズルズル食べる民族なんだ」ということを世界中の人に知ってもらった方が良いと思います。

枝葉の部分はもっとあります。丼を手を持って食べる食べ方もそうです。これもとても珍しい習慣だと思います。ふつうお皿はぜったいテーブルから持ち上げません。

こうした枝葉の部分については、これが日本文化なんだと理解して頂く。しかし、芯の部分については、世界共通で心の底から笑って頂く。それが英語落語のいちばん良いところです。

ですから、「時そば」では、あらかじめ、日本ではズルズル食べていいんだということを説明して理解して頂いてから本題に入ります。そうすると、ズルズルと食べる場面になると、拍手が起こります。これは、日本国内ではまず起こらない現象です。

さらには、「あんなことを人前で公然とやっていいのならば、一度日本へ行って自分でやってみたい」という声も出て来ます。自分の国ではできませんからね。自宅でやれば、ご家族に嫌がられるでしょう。そこで私は、これまで野蛮なものとして受け取られてきた日本文化が、受け入れられるようになって来たかと嬉しく思います。

そうは言っても、いきなり始めますと、お客さんは自分が話しかけられたと思って、返事をするんです。「やあ、今日は。Hullo!」と言いますと、客席からも“Hullo!”という声が返ってまいります。“Come on up here.”と言ったら、客席の方が舞台へ上がって来たということもあります。

そこで、あらかじめお客さんには、声をかけないでください。舞台へ上がって来ないでくださいということを申し上げます。

まだまだお話したいことがたくさんありますが、そろそろお時間がまいりましたので、実演に移ることにいたしましょう。お題は「権助魚(ごんずけさかな)」です。(拍手) [文責=編集人]

おしまきみえ 大島希巳江さん

1970年東京都生まれ。コロラド州立大学卒。青山学院大学大学院国際コミュニケーション修士、国際基督教大学大学院教育学(社会言語学)博士。現在は文京学院大学外国語学部准教授。英語落語家として内外に広く活躍中。

英語落語「権助魚」は、立川志の輔師匠との共著[CDブック]『英語落語で世界を笑わす』(研究社、1,575円)に収録されています。

第 25 回研究発表会

盗った話、盗られた話
(間男と cuckold)

(前座) 宮本 倫好

前座の心得は真打(大島師匠)の露払いで、真打を食うほど面白過ぎてはいけません。だからといって、わざわざお越し頂いた皆様方に、失礼のない程度に面白くなくてはなりません。この微妙な間の取り方が、いわば前座の「芸」というものでして。

研究社の『英和笑辞典』は rest について、「神、宇宙を創って休み給えり。また男を創って休み給えり。されど女を創ってより、神も男も休むことなし」とあるそうですが、男女の間は人類の歴史と共に紛争の種でした。その典型例として、落語の間男(盗る方)とジョークの cuckold(不貞妻の夫・盗られる方)を取り上げます。

間男の語源は『落語うんちく辞典』によると、まおとで、方言では自作農ではない農夫、即ち「借りて耕す人」です。以下は倉本聡の説ですが、女性の体内には「a 女」と「b 妻(母)」の切替スイッチがあって、状況に応じて a と b が切り替わるそうです。自分でスイッチをひねる人もいます。そこでまおとが夫婦の間に付け入り、他人の畑を耕すのです。「父親に似ぬのを知るは母ばかり」と川柳にもあります。

落語では間男は「はしこい男」で、寝取られる方は大体、与太郎です。『お釣りの間男』では、与太郎は女房の浮気を知り、「重ねて四つ」と意気込んで現場に踏み込みますが、察した間男は八両を置いておきます。これでグラリときた与太郎、「お釣りの二分を返さなきゃ」と近所のカミさんに借りに行くというオチです。間男代(損料)は七両二分と決まっていたから、律儀な与太郎、二分を返して「まあいいか」。「据えられて七両二分の膳を食い」という川柳は、「据え膳食わぬは男の恥」という当時の流行語が下敷きになっています。イスラム圏では今でも姦夫姦婦は、lapidation(stoning to death)の刑で、命がけです。

cuckold は cucu (cuckoo) + pejorative suffix の ald。cuckoo はホトトギスに似た渡り鳥で、他の鳥の巣に卵を産み、育てさせます。な

ら本来は、間男の方が cuckold であるべきですが、いつの間にか勝手に畑を耕された夫が cuckold と呼ばれ、笑いの対象になりました。

Dr. Samuel Johnson は次のように述べています。“It was usual to alarm the husband at the approach of an adulterer by calling out “cuckoo,” which by mistake was applied in time to the person warned.”

cuckold に関する表現の中で cuckoo に巣を利用される鳥を witwal green woodpecker といい、それが語源で、浮気妻を楽しむ夫は wittol。さらに、夫に浮気を知られていることを楽しむ妻を cuckold fetishist あるいは hot wife というようで、「脳を刺激して進化の助けになる」という evolutionary psychology の一分野といえます。ここらは性の深淵を覗くようで、小心の前座の手には負えません。

なお、to adulterate は現在では「混ぜ物をする」という意味に限定されていますが、以前は「不貞をする」という意味がありました。「混ぜ物」と「不貞」は繋がって当然の気がしますが、ここらも言葉の面白さですね。その例として、Shakespeare は *King John* (1596) で、“She adulterates hourly with thine Uncle John.” と述べています。ただし、adult と to adulterate は語源的には、いかにも関係がありそうですが、実は無関係です。

to wear horns といえば、「間抜け男になる」意味ですが、不貞妻の亭主の頭には角が生えるという西欧の伝説が起源です。この角は本人には見えません。額の両側に指を立てると、He is a cuckold.を意味し、単に「バカだ」の意味もあるようです。日本で女性が嫉妬することを「角を生やす」といいますが、西欧の影響だと岡倉由三郎大先生は言っています。

adultery といえば、Nathaniel Hawthorne の *A Scarlet Letter* が有名です。舞台は Puritan の厳しい掟が支配する 17 世紀の新植民地アメリカ。女主人公 Hester は不義の子供を出産しますが、その相手が意外な人物という設定で、落語のおどけた世界とはまったく異質の、深刻なドラマが展開します。Hester は adultery の印である A の緋文字を胸につけられ、贖罪の日々を送ります。



1957年のBroadway musical *Music Man*には Harold Will の次のような歌が登場し、時代の変遷をうかがわせます。“I smile, I grin when a gal with a touch of sin walks in. I hope and I pray for Hester to win just one more A.”

Puritan たちが adultery を厳しく非難した根拠は Jesus の次の言葉でした。Whoever looks at a woman to lust after her has committed adultery already with her in his heart.

在米中の思い出一つ。Bible Belt 出身の Christian である Carter が大統領就任直後、*Playboy Magazine* がインタビューし、「これまでで心で姦淫したことはないか」と聞きました。普通だと「アホなことを聞くな」と突き放すのですが、真面目な Carter は苦渋の色を浮かべ、「ある」と答えました。偽善者であるよりも、心に罪を犯したことを告白する道を選んだのです。記者は「心で姦淫し、妻の Rosalyn を裏切った」と書き立てました。

下って天性の好き者 Bill Clinton 時代、adultery の相手は数十人といわれました。「これはもう直らん」とあきらめ気味の間が注視したのは、賢夫人の Hillary Clinton です。Hillary の立場に当たる英語に cuckquean (cuckoo + queen) がありますが、「彼女の隠然たる力を見れば、しょぼくれた cuckquean という言葉は似合わない」とし、進歩派は彼女の「Bill に対する物分りのよさ」に大いに失望しました。

庶民対象の jokedom では、adultery は大人気ですが、親友の妻との不貞が特に好まれます。友情など「一盗、二婢、三妾の前には屁みたい」という cynicism が面白い。

例・A married man took a solo trip to Bermuda. He fell so in love with the place he e-mailed his friend. “Catch next plane out. Bring my wife and mistress.” He e-mailed back: “Your wife and I arriving tomorrow at 4 p.m. How long have you known about us?”

以上で皆さんは姦通についての通になったはずですが、姦通の通では困りますが。

そこで口直しのエピソード。新劇の中村伸郎、親友の癌研院長・田崎勇三にむりやり検査を受けさせられた。告知の当日。田崎「酒、タバコはだめだな」中村「女はどうだ？」田崎「まあ、自宅のものなら少々はな」。やはり家庭大事ということでしょうか。お後がよろしいようで。

どうぞよろしく =新入会員ご紹介=

田村公雄さん (東京都練馬区大泉学園町)

① 私にとってジョークとは：

ジョークは心が豊かで、頭脳が柔軟で、向上心が無いと生まれにくいもの。楽しく充実した人生の為に大切なもの、と思います。

② 私の好きなジョーク：

The jumble sale is a good chance to get rid of those things not worth keeping around the house. Bring your wives.

原文は最後が husbands になっていましたが、悔しいので wives に変えました。

第26回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：7月16日(土) 午後2時-4時
- 会場：平河町 Mercury Room (クオリティ(株) 6階会議室) (東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル)
- 交通：地下鉄・有楽町線麴町駅1番出口より徒歩2分。地図は、<http://www.quality.co.jp/> かどうか。
- プログラム
 - ① 研究発表「英語決まり文句のもじり(2)」 豊田一男 会員
 - ② 第8回ジョーク・コンテスト 司会=服部陽一 会員
- 参加費：会員・非会員とも500円。
- 研究発表会終了後、近くの喫茶店で交流会を開きます。こちらにも、ご参加ください。
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第25号

発行日：2011年6月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル

クオリティ株式会社 気付

TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130

問合せ先：renraku@eigojoker.com

